



2015～16 年度
国際ロータリー会長
K. R. ラビンドラ

Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16 年度
新潟ロータリークラブ会長
竹石 松次

新潟 RC9 月第 3 例会 (2015.9.15) No.3103

(1) ロータリーソング「我らの生業」斉唱

(2) 竹石 松次 会長挨拶

會津八一 明治十四 (1881) ～昭和三十一年 (1956)

新潟市中央区古町通五番町に生まれる。會津家は、文化二年に創業の料亭で、一時は敷地四百坪、建坪二百七十坪の構えを持っていた。父・政次郎は市島家の一族で、會津家の娘・イクとの間に三男四女のうちの次男であった。家事一切を祖母が仕切っており、八一も乳母をつけて育てられた。後年に詠んだ歌がある。

「なきぬれて うばといねたる ものおきの
こまどのゆきに いでしつきかも」

會津屋を経営していた叔父の友次郎が、和漢の学問に通じていたことから地元の俳句会に参加、歌の世界との関係が出来た。

二十歳前後から、万葉集に興味を覚え、尾崎紅葉、坪内逍遙が新潟を訪れた際、二人に心酔し、上京、正岡子規とも知遇を得たほか、小泉八雲・ラフカディオ・ハーンとも知り合った。

早稲田大学を卒業し、郷里の上越市 (旧中頸城郡板倉町) の私立有恒学舎の英語教師に就任した。この頃から、万葉集のふるさと奈良に行くようになり、法隆寺、法輪寺、法起寺等を旅し、奈良を溺愛することとなった。

「いかるがの さとのをとめは よもすがら
きぬはたおれり あきちかみかも」

明治四十三年、坪内逍遙の働きかけで、早稲田中学校の英語教師に就任、大学講師も兼任することとなった。

生活拠点を東京に移した八一は、新潟新聞にも寄稿し、短歌や書道にも力を入れた。

この時に教え子に作った「学規四則」は、八一の心情を明確に表している。

- 一、 深くこの生を愛すべし
 - 一、 かえりみて己を知るべし
 - 一、 学芸を以て性をやしなうべし
 - 一、 日々真面目あるべし
- である。

昭和に入り、奈良美術と東洋美術史の研究に執心し、文学博士の学位を取得した。また、大学内に「東洋美術資料陳列室」を設立、その後、秋艸堂を下落合に移したが、昭和二十年四月、太平洋戦争の空襲で家屋が焼失し、蔵書の大半が失われた。失意のうちに当時としては、極めてまれな航空機で新潟空港に降り立った。

故郷新潟に戻った時に詠んだ歌は傑作の一首である。

「みやこべを のがれきたれば ねもごろに
潮うちよせる ふるさとのほま」

である。

現在奈良には二十基の歌碑が建立されている。平成二十六年十一月に法隆寺境内に建立された歌碑は、八一が望んだ五重塔を望める一角であった。

「ちとせあまり みたびめぐれる ももとせを
ひとひのごとく たてるこのたふ」

(千年余ること三百年 千三百年という月日が経ちながら、まるで一日のことであったかのように、爽やかに建っている法隆寺の塔よ)

平成二十七年には、昭和二十年、八一が養女・キイ子と一時期、生活、突然の死に悲しみくれる八一の心の内を吐露したもので、胎内市 (旧中蒲原郡中条町) に、歌碑が建立されることとなった。

「やまばとの ともよすやどの しづもりに
なれはもゆくか ねむるごとくに」

昭和二十五年、新潟市が、書道家として、歌人としての業績を顕彰するため名誉市民に推挙された。

その後、昭和二十八年の皇居、歌会始の召人に選ばれ「船出」のお題に一首を詠んでいる。

「ふなびとは はやこぎいでよ ふきあれし
よいのなごりの なほたかくとも」

八一の歌に流れている一貫した主義は、我が国の伝統的な大和言葉の持つ精神性を極めて尊重している姿勢であり、その底流を形成している言葉の響きを咀嚼していることである。言葉の持つ歴史的な背景を鑑み、ひらがなで表現する、やさしさとたおやかさを秘めた歌は、頑固一徹の印象を持たれる八一の内面とは全く違う優しさに満ち溢れ、その底流には奈良で代表される、古の教えである。

友人で、歌人、医師であった中田瑞穂は、著書「會津八一と私」の中で、「先生の自らいわゆる如く、万葉集と良寛と子規とに刺激され、しかも先生の信念をかためる上には、漢詩、遑ってはギリシャの詩を研究され、詩の本質についても一家言をもって居られた。」と述べられている。

正岡子規、坪内逍遙、北大路魯山人、棟方志功、相馬御風、市島謙吉、そして、新潟日報・新潟放送社長を務めた坂口猷吉、伊藤文吉等、多くの文化人と交友を結んだ。

八一は、新潟で七十六歳の生涯を終えたが、その足跡は受け継がれ、平成二十六年八月新潟日報メディアシップビル内に、新しく「會津八一記念館」がリオープンした。

新潟市の菩提寺瑞光寺境内には歌碑、
「ふるさとの ふるえのやなぎ はがくれに
ゆうべのふねの ものかしぐころ」

毎年命日には、會津八一を顕彰する『秋艸会』や信奉者による法要が営まれている。

(3) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付

樋熊 紀雄君

米山奨学会寄付発表(若杉 武副委員長)

徳永 昭輝君

青少年育成基金寄付発表(吉田 和弘幹事)

高橋 義明君

(4) ニコニコボックス紹介(堀 盛富委員)

・樋熊 紀雄君 9月11、12日、イタリア軒においてワークショップ第12回新潟医師臨床研修指導医養成講習会が開催され、無事修了しましたのでニコニコします。

・坂本 務君 9月12日、紫雲・飯豊コースにて天気と良き仲間に恵まれ、途中、中断はありましたが、6年目にして初めて100を切りました。忘れられない日となりました。感謝を込めてニコニコします。

・高橋 義明君 誕生日のワインありがとうございました。

(5) 幹事報告(吉田 和弘幹事)

・本日、10月27日(火)に開催致します公開講座のチラシを配布致しました。この事業は、クラブ全体で行いますがご担当は職業奉仕委員会とプログラム委員会です。よろしくお願い致します。

(6) 卓話「南極隊の越冬体験記」

(株)ミサワホーム総合研究所 井熊 英治 氏

(ご紹介 川瀬 正幸会員)



(7) 9月15日例会の出席率 68.82 %

会員数99名(出席免除会員 9名)

出席者64名(出席免除会員 3名を含む)

(2週間前メーク後 89.59 %)

10月6日の例会予定

「米山月間に因むお話」小林 敬直米山奨学委員長

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>